

第6節 学習上の悩み

【学習をめぐる悩みや不満は第一にこつこつ努力できない自分に対して向けられており、第二に上手な勉強の仕方を手に入れたいという欲求が強い。】(図2-10、図2-11)

Q11

あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。そう思うことがあるものにいくつでも○をつけてください。

高校生は、学習上どのような悩みを抱えているのだろうか。

高校生の半数以上が「そう思うことがある」と答えたのは、以下の6項目である。

- ①こつこつと努力できないで困る=63%
- ②上手な勉強の仕方がわからない=62%
- ③どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う=57%
- ④覚えなければいけないことが多すぎる=57%
- ⑤どうしても好きになれない科目がある=57%
- ⑥世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい=51%

学習をめぐる悩みや不満は第一にこつこつと努力できない自分に対して向けられており、第二に上手な勉強の仕方を手に入れたいという欲求が強い。この結果は、成績を向上させるのに大切な要因(努力主義、効率的な勉強方法—技術主義、第2章第3節P.48参照)と符合している。これら二者に、必要な学習の量が多すぎることや教科内容に対する不満が続く。「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」という意識は、学習内

容に対する疑義を端的にあらわしている。

これらとは逆に、回答率が2割程度以下しかなかったのは、「よい参考書や問題集が見つからない」(17%)、「親の期待が大きすぎる」(20%)、「自分は生まれつき頭が悪いのではないかと思う」(21%)である。

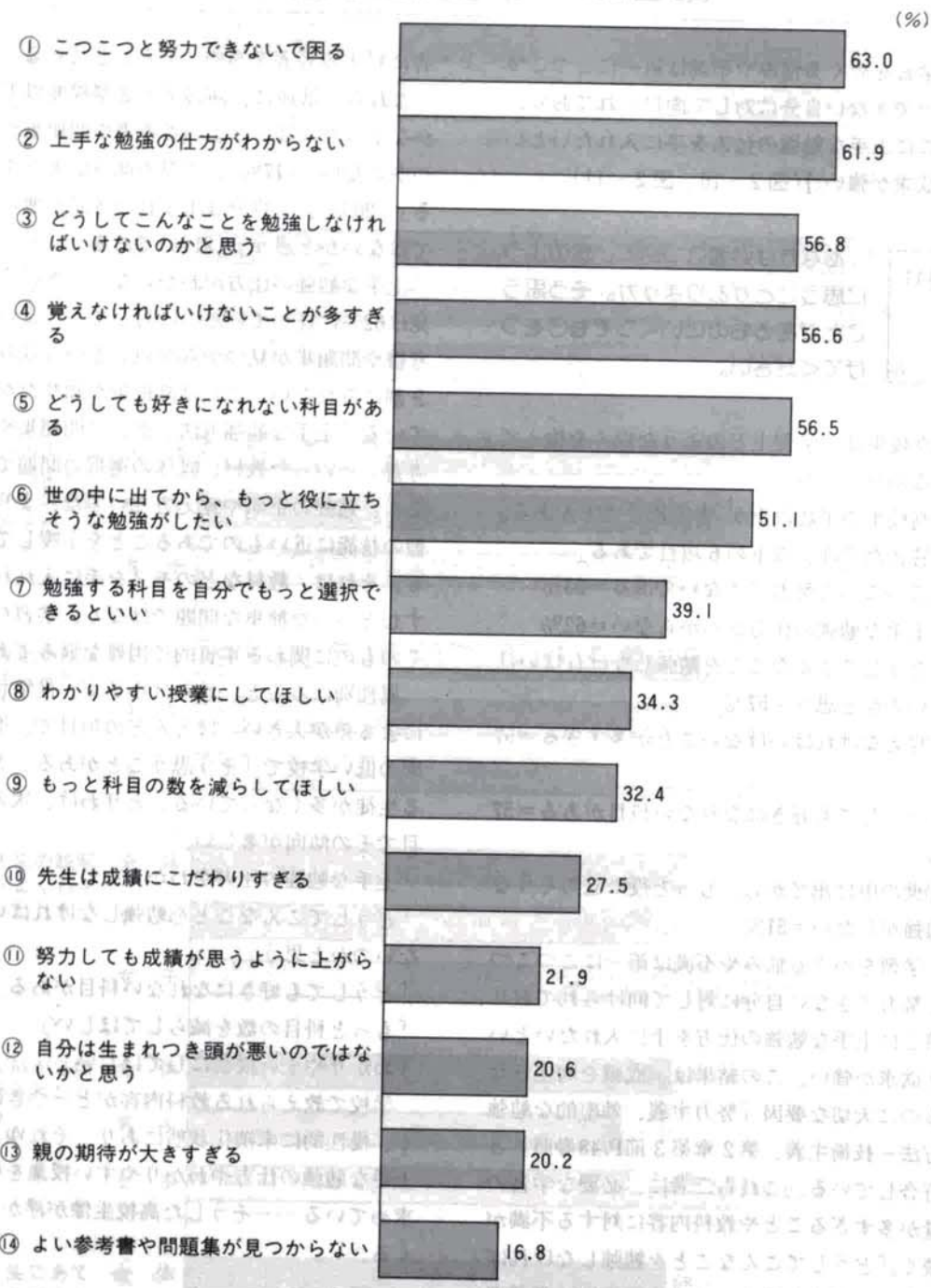
「上手な勉強の仕方がわからない」という意見は62%に達していたのに対して、「よい参考書や問題集が見つからない」という悩みは2割にみえない。これは高校生が知りたがっている「上手な勉強方法」が、「問題集や参考書」といった教材、媒体の選択の問題ではなく、勉強の手順や覚え方といった、より学習の技能に近いものであることを示唆している。それは、教材などのモノを手に入ればすむといった簡単な問題ではなく、学習行動そのものに関わる本質的で困難な悩みである。

属性別にみると、性差は小さく、進学状況による差が大きい。ほとんどの項目で、進学率の低い学校で「そう思うことがある」とする生徒が多くなっている。とりわけ、次の項目でその傾向が著しい。

- 「上手な勉強の仕方がわからない」
- 「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」
- 「どうしても好きになれない科目がある」
- 「もっと科目の数を減らしてほしい」
- 「わかりやすい授業にしてほしい」

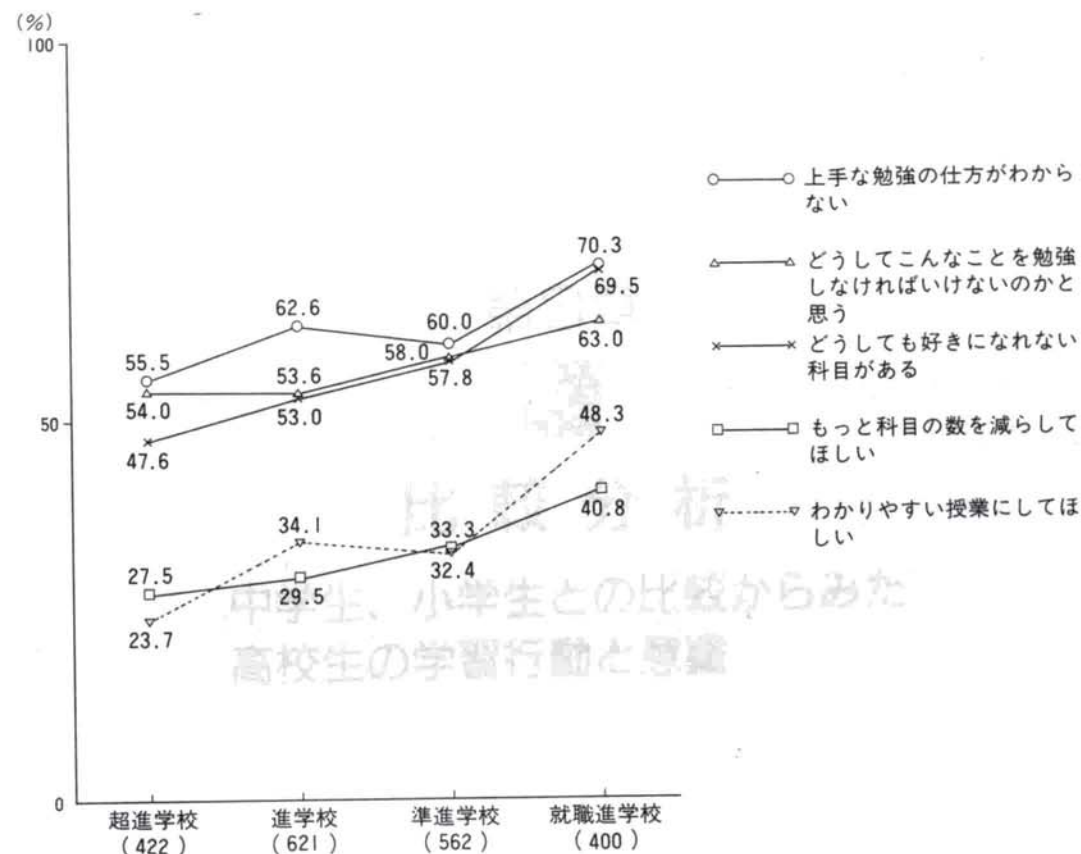
学校で教えられる教科内容がとっつきにくく、慢性的に未消化状態にあり、それゆえに上手な勉強の仕方やわかりやすい授業を強く求めている——そうした高校生像が浮かんでくる。

図2-10 悩み



注) サンプル数は2005人。

図2-11 悩み



注) ()内はサンプル数。